NIE実践報告

1．タイトル：自分の考えを持ち、それを伝えようとする児童の育成　～NIEへの取り組みを通して～

2．学校名

津久見市立千怒小学校

3．実践者名（代表者名）

佐藤　充

4．学年

５学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科・道徳・総合的な学習の時間　２４名

6．単元（本時の学習課題）名

「読み手をひきつける壁新聞を作ろう」

7．目標(狙い)

見出しやレイアウトを工夫した壁新聞をつくるために、新聞ができるまでの流れを調べ、正確な情報を早く、わかりやすく伝えるための工夫や努力を知り、新聞作りにかける思いを理解することができる。

8．評価の視点

○読み手に一番伝えたいことを正確に分かりやすく伝えるための見出しやレイアウトの工夫があるか。
○自分達の思いが込められた壁新聞をつくることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「わたしたちのくらしを支える情報」（教科書：日本文教）[社会：１０時間、道徳：１時間、総合：４時間]

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①東日本大震災で被災した児童が発行した「ファイト新聞」について話し合い、新聞の力を知る。（１時間）
②新聞作りに関わる人々の工夫や努力について予想し、図書館を利用して調べ学習を行う。（４時間）
③調べ学習の結果分かったことをグループごとにまとめ、発表する。（４時間）
④実際に新聞記者の方に来てもらい、調べ学習で解決できなかった疑問を解決し、レイアウトの工夫を学ぶ。（２時間）
⑤新聞作りにかける記者の思いを、石巻日日新聞社の壁新聞をもとに考える。（道徳・１時間）
⑥東日本大震災の記事をもとに、「見出しの力」を考える。（１時間　本時）
⑦”千怒っ子ゲーム祭り”についての取材・新聞作りを行い、保護者に向けて発信する。（総合・４時間）
（留意点）
・調べ学習から新聞作りまで、四人一組のグループで取り組ませる。
・新聞作りでどんな話題を載せるかのヒントを与えるために、”千怒っ子ゲーム祭り”に向けての話し合いから当日の片づけまでの様子をできるだけ写真に収めておく。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

１面に何を載せるか、休み時間も集まって何度も議論する姿が見られた。いつも受け身で、考えをなかなか伝えることができなかった児童が、自分の考えを持ち、必死にそれを伝えようとしていた。どの班も、内容と見出しにこだわりをもって作ることができ、大きな達成感を味わうことができていた。

12．成果と課題

○実際に本物の新聞記者に出会わせ、記事作りにかける記者の思いをつかむことができた。
○全て４人グループで行うことによって、それが自分の考えを持ち、考えを伝える場として有効だった。
○アンケート結果から、新聞への意識の向上が見られた。（新聞を面白いと思う。５名→１８名）
○ 児童の心に響く、力のある資料を使うことで、より深く考える場を設定することができた。
▲4人の中で意見は出せても、それを根拠をもって主張できるまでには至らない児童もいた。